

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4171000047
法人名	社会福祉法人 健寿会
事業所名	グループホームなごみ
訪問調査日	平成20年2月22日
評価確定日	平成20年3月26日
評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4171000047
法人名	社会福祉法人 健寿会
事業所名	グループホーム なごみ
所在地	佐賀県佐賀市富士町大字小副川562 (電話) 0952-64-2315

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成20年2月22日	評価確定日	平成20年3月26日

## 【情報提供票より】(20年1月31日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 10 月 7 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 7 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	8.5 人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	17,050 円	その他の経費(月額)	35,650 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,000 円				

## (4) 利用者の概要(2月6日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低 81 歳	最高 94 歳		

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	紋島病院、栗林歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

県内でも有数の熊の川温泉地帯に位置し、周りには山紫水明の景色が広がっており、ホームの窓からも四季折々の美しい景色を楽しむことができる。職員は、運営者の認知症高齢者介護への熱い思い入れを共有し、入居者や家族の気持ちを汲み取りながら、入居者が安心してその人らしく暮らせるように支援している。ホーム内には昼の間に造る等、温かい家庭的な雰囲気作りが施されている。なお、風呂には温泉が引かれている。広い敷地内には併設の介護老人福祉施設や生活支援ハウスが隣接しており、それぞれの機能を活かした連携が図られている。現在、ホームの傍には、小規模多機能型居宅介護事業所も建設中であり、地域に根ざしたホームとしての益々の発展が期待される。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	入居者の献立作りへの参加及び感染症マニュアル作成等が課題にあげられていたが、速やかに検討し改善が図られている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が全職員に評価の意義や目的等を伝え、全員で自己評価を実施している。その結果、職員のサービスの質の向上に対する意識も高まっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームの状況や行事、今後の取組み等を伝えると共に、委員からも意見や質問等も出され、サービスの向上に向けた有意義な会議が行われている。なお、評価の結果も報告し、改善に向けた取組みには意見をもらいサービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時や運営推進会議の折に繰り返し声をかけ、意見や苦情等を聴くようにしている。出された要望については、前向きに捉えサービス向上に活かしている。ホームの玄関に苦情受付箱を設置したり、重要事項説明書にも苦情受付窓口等を明示している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	職員や入居者は、併設の介護老人福祉施設における行事等を通じて、地域のボランティアや小中学生との交流の機会が得られているが、ホームを拠点とした地域の一員としての双方向的な交流や活動をするまでには至っていない。運営推進会議等を活用し、地域の行事に参加したり、ホームの行事に誘いかける等、ホームを拠点とした交流への取組みを期待したい。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人ひとり個人として尊重し、心のふれあい・あたたかさを大切に寄添うケアに努めること」等が理念として掲げられているが、地域密着型サービスの果たすべき役割を反映するまでには至っていない。	○	現在の理念に加え、地域密着型サービスの役割を反映した理念づくりが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議の折に話し合ったり、日常の業務の中でも確認し合って理念共有に努め、理念の実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員や入居者は、併設の介護老人福祉施設における行事等を通じて、地域のボランティアや小中学生等との交流の機会が得られているが、ホームを拠点とした地域の一員としての双方向的な交流や活動をするまでには至っていない。	○	立地の問題もあるが、運営推進会議等を活用し、地域の行事に参加したりホームの行事に誘いかける等、ホームを拠点とした地域交流への取り組みを期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が全職員に評価の意義や目的を伝え、全員で自己評価を実施している。その結果、職員のサービスの向上に対する意識も高まっている。また、外部評価で見出された課題については、速やかに改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回定期的に開催されており、ホームの状況や行事、今後の取組み等を伝えると共に、委員からも意見や質問等が出され、サービスの向上に向けた有意義な会議が行われている。なお、評価の結果も報告し、改善に向けた取組みには意見をもらいサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者とは気軽に相談できる関係にあり、折に触れ、情報交換や課題解決のための相談をし、サービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会時に利用者の日頃の様子や健康状態を報告している。なお、定期的な金銭出納の報告書にも近況等を添えて届けている。それに加えて、電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議等の折には家族に繰り返し声をかけ、意見や苦情、要望等を聴くようにしている。出された要望については前向きに捉えサービスの向上に活かしている。ホームの玄関に苦情受付箱を設置したり、重要事項説明書にも苦情の受付について明示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	併施設間での人事交流は必要最小限度に抑えられている。職員の離職に伴う異動の際には関係づくりを工夫し、入居者へのダメージをできるだけ防ぐように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画のもとに毎月、法人内の研修会が実施されており、職員は積極的に参加しサービスの向上に活かしている。19年度は外部の研修会への参加はできなかったが、来年度は取り組む予定である。なお、職員の採用時には、一定の研修期間を設けるなど育成に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者団体に属しており、県内の他の事業所と相互訪問や合同の勉強会を行い、サービスの質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と相談し、見学や体験入居をしてもらおう等馴染みながらのサービス利用に取り組んでいる。併設のデイサービス利用者入居の場合には、職員や雰囲気馴染みもあり安心した入居に繋がっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者の喜怒哀楽の表出の大切さを理解し、その共有に努めている。入居者からは昔馴染みの料理や慣わしを学ぶこともあり、お互いに支えあう関係が構築されている。時には、入居者から思いがけない労いの言葉をかけられることもあり、喜びや励みになっている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室等で、個別にゆっくりと向かい合い、本人の思いや意向の把握に努めている。なお、意思の疎通が困難な場合には、家族等からの情報や日々の様子等を参考にし、本人本位に検討して支援に取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は、毎月の会議や日常の業務の中で情報や意見の交換を行い、本人本位の介護計画作りに取り組んでいる。なお、家族や本人とも話し合い意向の確認をし介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に見直しを行い、現状にそった計画で支援している。状態に変化が生じた場合にも速やかに計画の見直しが行われている。見直し時には、随時、本人や家族の意向を確認している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、健康管理や早期退院の支援等に取り組んでいる。また、家族の状況に応じ通院の支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の変更等は本人や家族の希望にそって支援しており、以前からのかかりつけ医とも情報交換を行いながら適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまでには看取り介護の実績はないが、終末期に向けた具体的な指針が作成されており、医療機関とも方針の共有ができています。家族には入居時に指針について説明を行い、その後も随時、必要に応じて説明を重ねている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者一人ひとりを敬い、人格を尊重した言葉かけやさりげない支援を行っている。また、職員は個人情報保護法を理解しており、情報や記録等の取扱いには注意している。広報紙の写真掲載についても本人や家族の了解が得られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、本人のペースを尊重した生活支援に取り組んでいる。起床及び就寝時間や昼間の活動、入浴時間等柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	通常の献立は併設施設の栄養士によって作られているが、入居者の希望により臨機応変に変更されることもある。食事の時には職員も同じテーブルを囲み、さり気ない支援をしながら楽しい雰囲気作りに取り組んでいる。なお、入居者も職員と共に盛付けや食器の後片付け等をされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には一日置きの入浴としているが、本人の希望があれば毎日の入浴も可能であり、夜間の対応も可能である。入浴を拒否される場合には、時間をおいたり職員の機転により気分転換を図りながら支援している。風呂には温泉が引かれており、入居者の楽しみにもなっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの生活歴や得意な分野を把握し支援している。野菜作りや食事の準備・片付け、訪問者への挨拶やお茶出し、植木の水やり、洗濯物たたみ等それぞれに力が発揮されている。また、気候の良い時期には車で出かけたり、併設施設で開かれている、習字や生花教室への参加も楽しみ事になっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には散歩をしたり、ホームの畑を見に行く等支援している。なお、併設の介護老人福祉施設での行事や習字教室等への参加も多く、外出の機会になっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は昼間は施錠されておらず自由に出入りができる。利用者の外出は職員の連携で見守り、外出希望時にはさり気なく付き添い、その意思に添うように支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルや連絡網も整備されており、昼夜を想定した避難訓練が、年に2回、消防署の協力を得ながら併設施設と合同で行われている。ホームや併設施設の職員の中には地域の消防団に加入している人もあり、地元の消防団との連携も図られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量はその都度把握し記録をしている。栄養のバランスも良く、入居者の体調や機能に合わせて食事の形態にも配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には家庭的な雰囲気の壁飾りや家具等を配置した畳の間もあり、入居者の寛ぎの場所になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら本人に馴染みの深かった品物の持込を支援している。家族や愛犬の写真、絵画、炬燵、テレビ、時計、壁飾り、人形、椅子等が見受けられる。また、本人が日頃練習されている習字等も飾られ温かい部屋作りがなされている。		